

アライグマ・ハクビシン対策始まる

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

近年、本県においてアライグマ・ハクビシン等の中型野生獣による農作物等への被害が増加し、東近江管内においても被害の拡大が懸念されています。

しかし、これらの中型野生獣については、出没状況や防除対策などの情報が少なく、果樹や果菜類の生産農家においても、被害を受けながら加害獣が特定できず、対策も遅れていました。

そこで、当課ではアライグマ・ハクビシン対策を獣害対策の課題として取り上げ、東近江獣害対策地域協議会の事業として防除対策の実践に取り組んでいます。



東近江市のなし園での現地研修

【普及活動の成果】

(1) 東近江協議会での啓発と情報提供

協議会では、平成20年度からアライグマ・ハクビシンについての性質や全国の状況などの情報提供を目的とした研修会や檻の作成支援等を行っています。それにより、市町・JA等の意識が高まり、21年度も獣種の確認や対策の助言等の現地指導を何度か行うとともに、7月には竜王町山の上地区で被害状況調査や、対策検討会を行いました。

(2) 管内のアライグマ・ハクビシン対策研修会

果樹農家等からの相談事例等、被害の潜在が想定されたので、8月4～5日に、農家や獣害対策の関係者（延べ65名）を集めた「アライグマ・ハクビシン対策研修会」を開催しました。

研修会では講師に中型野生獣研究の第一人者である埼玉県農林総合研究センターの古谷益朗氏を招き、生態から実践的な防除対策の講習会を行いました。また現地研修として侵入防止柵「白落くん」の設置実習と、東近江市北坂町・大林町のなし・ぶどう園で被害状況や加害獣の痕跡調査を行いました。



「白落くん」の設置作業（竜王町山之上）

ぶどう園では被害状況の痕跡からハクビシンの侵入被害を確認し、なし園ではタヌキの被害であることを確認しました。

加害獣を特定することにより参加農家からは「対策も絞りがよくなり、さっそく対策作業にかかりたい」との声が聞かれ農家の危機意識も高まりました。また、研修会に参加されたぶどう農家から「白落くん」の設置が要望され、当課から設置に係る技術支援を行いました。

アライグマ・ハクビシンは早期の対策で増殖を食い止めることが重要です。しかし、中型野生獣の繁殖場所となる納屋や空き家屋などが点在する農村地域において、侵入対策や捕獲等の取り組みの強化が必要であり、今後も当課では情報の提供や対策の呼びかけなど継続して指導する予定です。